

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	篠崎児童発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2025年11月17日		～ 2025年12月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 2人
○従業者評価実施期間	2025年11月17日		～ 2025年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○訪問先施設評価実施期間	2025年11月17日		～ 2025年12月26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5園	(回答者数) 4園
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童を担当する職員が訪問支援にも従事しており、日頃の関わりを踏まえた支援ができています。	訪問前にクラスや個別指導の様子を丁寧に取り、最新の子どもの状況を把握したうえで支援に入るようにしている。	訪問後の情報共有が不足していたため、担当職員同士で共有する時間を意識的に確保し、連携を強化していく。
2	訪問支援員同士の情報共有が円滑で、支援内容の統一や質の向上につながっている。	園の方針を踏まえ、現場で無理なく継続できる支援方法を意識して助言している。	センター全体で保育所等訪問支援への理解を深められるよう、研修や報告の機会を設け、認知向上を図る。
3	訪問支援員の知識や技術を高めるための研修を定期的実施し、専門性の維持・向上を図っている。	担当児のみを対象とするのではなく、他児も含めたクラス全体の運営に触れながら、より広い視点で助言している。	訪問支援員の知識と技術を高めるため、研修の実施頻度を増やし、専門性の向上に取り組む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員以外の職員に、保育所等訪問支援の内容や取り組みへの理解が十分に浸透していない。	訪問に関わるクラス担任や個別担当者は訪問時の様子を把握しやすい一方で、関わらない職員は保育所等訪問支援に触れる機会が少なく、事業内容の理解が進みにくい。	訪問の取り組みについて、全職員に向けた報告の機会を設け、対面だけでなく書面でも共有することで、情報がより広く行き渡るようにする。
2	保育所等訪問支援の利用希望に対し、すべてのニーズに対応できない場合がある。	職員の業務時間に制約があるうえ、経験の浅い職員も多いため、訪問に対応できる職員が限られている。	研修やセンター内での業務報告会を実施し、訪問に対応できる職員の育成につなげる。
3	研修や人材育成に充てられる時間が限られており、十分なスキル向上の機会を確保しにくい。	育成プランが十分に運用されておらず、計画的な人材育成が進みにくい状況がある。	事業所内で整備されている育成プランを積極的に活用し、計画的な人材育成を進める。